

## 「何それ、ありえない」 3月号 ～「こころの扉」を少し開いてみませんか～

あるバラエティ番組で、目隠しをして鯛とフナのにぎり寿司を食べ比べ、どちらが鯛のにぎりかを当てるという番組がありました。視聴者には、解答者が食べる前にどちらがフナの寿司かを知らせておいて、結果を待つという番組。それを見ていた家族は「鯛とフナを間違えるはずはない」と信じて結果を待ちました。ところが、その結果を見た家族は「何それ、ありえない」「信じられない」と絶叫。そして、大笑い。解答者が、フナのにぎりを鯛のにぎりと解答したからです。

この「何それ、ありえない」「信じられない」という言葉、誰もが一度くらいは聞いたことのあるフレーズではないでしょうか。では、この言葉はどんなときに使われるのでしょうか。それは、他

人の言葉や振る舞いが、自分の常識に反しているとき。「何それ、ありえないよね」と、相手を否定しつつ、微妙にバカにしているのです。そして「ありえない!」とあきれ返って否定することで「自分はそのような非常識な人間ではなく、良識ある人だ」と、自らに言い聞かせているのです。

しかし現実には、自分の思惑を超える、あらゆることが起こるのが当たり前です。全ては「ありえる」ことです。自分の中ではありえないことでも、相手の中ではありえることなのです。その逆の場合もあります。「自分もやりかねない」という意識を持っていれば「ありえない」を離れて相手を許容する優しさが生まれつつあるのではないでしょうか。

私たちの社会は、いろいろな人がいて、いろいろな考えをもち、そう

いう多様性があることが素晴らしいところでもあると思います。それを認めることで、人権が尊重され、暮らしやすい社会になるのではないでしょうか。

